

「科学の価値中立性に対する誤解」に矛盾・混乱はない

大阪支部 菅野礼司

私の「科学の価値中立性に対する誤解」は矛盾に満ちているという宗川氏の批判は誤解なので、読者の誤解を解くために再び反論せざるを得ない。

その要点は

- (1) 私は科学と技術を区別し、科学の理論的価値と技術による利用価値とを区別して論じている。その上で、科学は価値中立と没価値は異なることを主張した。その区別を理解すれば、論理矛盾ではないことは理解できるはずである。論文を正しく読んで欲しい。
- (2) ウェーバーやその他の人の説や論、および百科辞典を引用して、私の説を否定しているが、私は(1)に述べた論旨によって、価値中立と没価値は別だと主張した。その理由をきちんと述べた上で、両者は区別すべきであるといっている。

誰が言ったとか、辞典に載っているとかで正否が決まるのではない。論理的に筋が通り、理論的に正しいか否かで判断すべきである。

先人と異なる説を認めず、異説を述べると混乱・矛盾しているというのでは学問の進歩はない。私はウェーバーたちの土俵から一步踏み出たところで論じている積もりである。

- (3) 科学の理論的価値の判断をするのは「人間か神か？」に対する答えは、科学の理論的価値の判定基準を、理論の真理性と科学研究における有効性にあることを私は述べている。この判断基準によって、その判断は科学者集団（学会）であることは自明であろう。

パラダイムや科学革命を認める者なら、このことは明らかなはずである。

- (4) 「罵詈雑言」について：たとえば「回答もせず無視」、「的外れ」、「誤りを犯している」など、私が何処でそれを言っているか、私の論文を読めば、読者はこれらの表現が「罵詈雑言」といえるものではないことがわかるだろう。その他の言葉もほぼ同様である。

読者が私と宗川論文を客観的に読んで判断して頂きたい。

2017年12月21日